

中部大会速報

16 福井県 福井農林高校

発行

第68回中部日本高等学校演劇大会生徒実行委員会 広報

2015年

12月27日

作品名

クロニクル

創作
Original

「生命」でつなぐ

息を呑む、急展開

27日、福井農林高等学校(福井県)が「クロニクル」を上演。

農林高校らしい、生命を深く感じさせる劇だった。

上演後、キャスト、演出の方にインタビューした結果をまとめた。

人間として伝えたい

人は、精神的に弱い。しかし、頑張って生きている。そのことを演出は伝えたかった。また、パネルに貼られた新聞は、人間の刻んできた歴史そのものを、表していた。貼られたものの中には、戦争の内容を取り扱ったものも

含むなど、細部までこだわった。

この脚本を作成した背景には、人間と生き物の違いに対する疑問があった。例えば人間が死んだ場合、誰かが悲しむ。その一方で虫が死んだとしても、誰も悲しまない。そこに人間とは何かというテーマが浮かび上がった。キャラクターの選択

劇中で語り手となった堀江の衣装がパンダの格好だった背景には、「神」への意識があった。他のキャストと別次元であることを示す必要があったため、当初は他のキ



米を利用して劇を表現した。

ヤストと同じパジャマだったが、変更した。舞台の演出

パネルの新聞には、日本の社会の暗い部分をあえて選択し、雰囲気醸成した。このパネルの作成には2週間を要し、舞台の雰囲気を上手く表した。

演出の面では、創作脚本で



生と死を上手く表した福井農林高校。

あることを活かし、キャストの性格と役の性格とを合わせた。その結果、キャストが思い通りに動くことができた。

稽古では、場面ごとに演出を考え、観客がどのシーンを見てもわかるように工夫した。

ここまでの苦勞

部員の中に赤点を取ってしまった人がおり、実質2人しか稽古に取り組めなかったという日もあった。しかし、部員全員が仲良く活動していき、結果として、楽しい劇になった。

キャストの中で、高齢の役をする際に、落語を聞いて喋り方を研究するなど、役になりきるための練習を幾度も重ねた。料理をつくる動作をしながらセリフを言うシーンでは、立ち位置や手の動作を覚えるために、家のキッチンで実際にセリフを言いながら練習した。

照明では、ホリゾントの色にこだわり、最後まで微調整を繰り返した。

(担当) 泉、北野、松川、長沢